

製品名: Rsk-1 (リン酸化 Thr573) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05393**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	95kDa

抗原情報

遺伝子名	RPS6KA1
別名	RPS6KA1; MAPKAPK1A; RSK1; Ribosomal protein S6 kinase alpha-1; S6K-alpha-1; 90 kDa ribosomal protein S6 kinase 1; p90-RSK 1; p90RSK1; p90S6K; MAP kinase-activated protein kinase 1a; MAPK-activated protein kinase 1a; MAPKAP kinase 1a; MAPKAP
遺伝子 ID	6195.0
SwissProt ID	Q15418
免疫原	抗血清は、Thr573 のリン酸化部位周辺のヒト p90 RSK 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 539-588

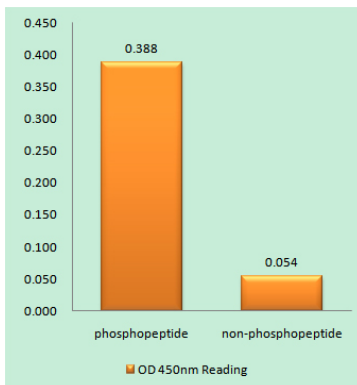
背景

リボソームタンパク質 S6 キナーゼ A1 (RPS6KA1) ヒト この遺伝子は、セリン/スレオニンキナーゼである RSK (リボソーム S6 キナーゼ) ファミリーのメンバーをコードしています。このキナーゼは 2 つの非同質なキナーゼ触媒ドメインを有し、マイトジェン活性化キナーゼ (MAPK) シグナル伝達経路のメンバーを含む様々な基質をリン酸化します。このタンパク質の活性は、細胞の増殖と分化の制御に関与していることが示唆されています。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエントが特徴付けられています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。注意: ここに示す配列は、Ensembl 自動解析パイプラインから取得したもので、暫定的なデータとしてお考えください。補因子: マグネシウム。酵素調節: スレオニンおよびセリン残基の多重リン酸化によって活性化されます。機能: セリン/スレオニンキナーゼは、成長因子およびストレス誘導性の転写因子 CREB の活性化を媒介する役割を果たす可能性があります。PTM: 活性化プロセスの一部として、Ser-380 が自己リン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。S6 キナーゼサブファミリー。類似性:AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。類似性:タンパク質キナーゼドメインを 2 つ含む。サブユニット:静止細胞において ERK1 または ERK2 と複合体を形成する。分裂促進刺激により一時的に解離する。

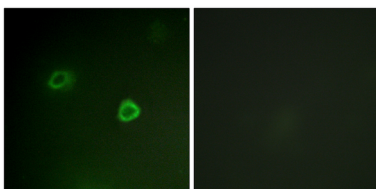
研究分野

血管新生を制御する; インスリン受容体; B 細胞受容体; AMPK

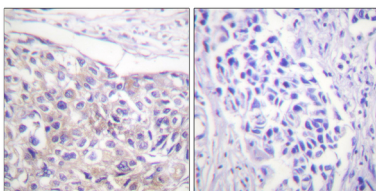
画像データ



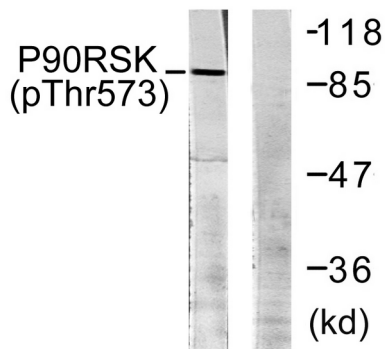
p90 RSK (リン酸化 Thr573) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



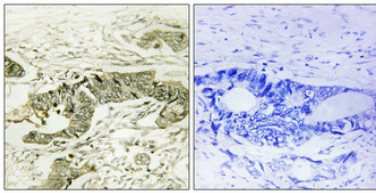
p90 RSK (リン酸化 Thr573) 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



p90 RSK (リン酸化 Thr573) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 30 '処理した 293 細胞ライセートの p90 RSK (リン酸化Thr573) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。